

## はじめに



西宮市長  
石井登志郎

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、国内で初めて感染者が確認されてから1年を経過した現在でもなお我々の生活に大きな影響を与えています。特に令和2年（2020年）2月末から5月末にかけては、長期間の学校の休校や緊急事態宣言に伴う外出自粛要請など、様々な社会活動が制限され、我々はこれまでに経験したことのない状況に直面しました。

この新型コロナウイルス感染症への対応を通じて、感染者数の増減など日々状況が変化していく中で、市民の皆様がどのようなご意見を持ち、どのような情報を求めているかを把握し、これらに的確に対応し、伝えるために情報発信すること、いわゆる「広聴」と「広報」の連携の重要性を改めて認識したところです。

また、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、対面での対話の場を設けることが難しい状況の中、新たな取り組みとして、オンラインで市民の皆様と意見交換を行う「市長とオンラインミーティング」など、withコロナ下での新たな広聴活動に取り組んでいます。

昭和29年（1954年）から継続して実施しております「市民意識調査」は、市政に対する市民の意識を把握するための重要な広聴事業のひとつです。

今年度は、「住宅用火災警報器」、「公共サイン」、「食品ロスの削減」、「参画と協働のまちづくり」の4テーマについて調査を実施しました。ここにまとめました調査結果から、皆様の意識・ニーズを的確に把握し、市民満足度の高い行政運営を進めてまいります。

結びに、市民意識調査にご協力いただきました市民の皆様ならびに調査結果の分析をご指導いただきました関西学院大学政治行動研究センター・善教将大准教授をはじめ、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和3年（2021年）2月